

郡家駅前活性化委員会委員

主任研究員 倉持裕彌

1. 事業の背景

「郡家駅前活性化委員会」は、八頭町商工会における駅前の活性化を主に検討する附属委員会である。委員は主に商工会会員によって構成されている。

- ・委員会は、2009年度から本格的に活性化事業の企画運営に乗り出しており、2010年の委員会も事業実施、企画検討と精力的に活動した。
- ・本委員会におけるとっとり総研の役割はアドバイザーである。委員会は月に1回以上開催される。

2. 事業内容

「郡家駅前活性化委員会」はこれまでに、活性化座談会、旧鳥銀建屋利活用、軽トラ市、かかしのまちおこし、などに取り組んでいる。委員会の特徴として事業や企画へのレスポンスが早い、行政に対して意見を主張する、委員がまず積極的に行動する、などまちづくり団体として機能している点が挙げられる。このような団体であることが、規格外品の花御所柿をつかった「合格柿」や、徳島の市での出張販売など、話題性のある企画を実施し、成果に結び付けられている理由の一つであろう。

なお、これまでの事業において、とっとり総研のアドバイスが活かされた主な事例は以下である。

- ・旧鳥取銀行建屋の金庫をイベントで活用
- ・旧鳥取銀行建屋のリニューアルイベントで、石破茂国会議員に一日店長を要請
- ・かかしを若桜鉄道に乗せて、対外的にPR

3. 効果・評価

基本的に委員会への委員としての参加であるため、効果や評価は判定しにくい。そこで、具体例を挙げて、とっとり総研が果たしている役割を示したい。

たとえば、郡家駅前には、乗降客数、商店など駅前を活性化する資源に乏しい。したがって駅前だけにこだわって活性化を図ろうとすると限界がある。一方で、町全体の活性化も十分でないことから、委員会としてどのような取り組みをするべきなのか、などの“そもそも論”がしばしば繰り返される。活性化の研究では、こうしたそもそも論を共有することの重要性は明らかなので、委員会においても意図的に論議を仕掛け、委員の合意形成を図る支援を行っている。

駅前活性化委員会の活動に対する評価は、県の鳥取力創造に関する補助事業における高い評価や、各種マスメディアへの露出など、まちづくり団体としては十分な評価をすでに得ている。



かかしでまちづくり(若狭鉄道にかかしを乗せPR)



旧鳥取銀行建屋を改修した観光販売拠点
「きらめきプラザ八頭」



委員会で検討した「合格花御所柿」。規格外品の五角形の花御所柿に“合格”をかけて販売。